

DRUG



INFORMATION

2015 No. 4

平成27年2月10日発行

院外処方医薬品情報

—平成27年2月16日開始薬品—

岐阜大学医学部附属病院・薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

※ Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/drug-info/>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
di8931@gifu-u.ac.jp (担当：安田)

平成 27 年 2 月 16 日開始薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
サーティカン錠 0.25mg(エベロリムス)	免疫抑制剤(mTOR 阻害剤)
サラジェン顆粒 0.5%(ピロカルピン塩酸塩)	口腔乾燥症状改善剤
ストラテラ内用液 0.4%(アトモキセチン塩酸塩)	注意欠陥／多動性障害治療剤
デカドロン錠 4mg(デキサメタゾン)	副腎皮質ホルモン製剤
レグパラ錠 25mg(シナカルセト塩酸塩)	二次性副甲状腺機能亢進症治療剤

(エベロリムス)

▶サーティカン錠 0.25mg (劇)

Certican 0.25mg/錠 [ノバルティス]

〔薬価〕679.2 円/錠

【効】下記の臓器移植における拒絶反応の抑制：①心移植、②腎移植

【用】(内) ①1.5mg を 1 日 2 回に分けて投与する。開始用量は 1 日 3mg までを用いることができる。

②1.5mg を 1 日 2 回に分けて投与する。

(ピロカルピン塩酸塩)

▶サラジェン顆粒 0.5% (劇)

Salagen 5mg/g/包 [キッセイ]

〔薬価〕133.7 円/包

【効】頭頸部の放射線治療に伴う口腔乾燥症状の改善、シェーグレン症候群患者の口腔乾燥症状の改善

【用】(内) 1 回 5mg を 1 日 3 回、食後に投与する。

(アトモキセチン塩酸塩)

▶ストラテラ内用液 0.4% (劇)

Strattera 4mg/mL [日本イーライリリー]

〔薬価〕209.2 円/mL

【効】注意欠陥/多動性障害(AD/HD)

【用】(内)○18 歳未満の患者：1 日 0.5mg/kg(0.125mL/kg)より開始し、その後 1 日 0.8mg/kg(0.2mL/kg)とし、更に 1 日 1.2mg/kg(0.3mL/kg)まで増量した後、1 日 1.2～1.8mg/kg(0.3～0.45mL/kg)で維持する。増量は 1 週間以上の間隔をあけて行うこととし、いずれの投与量においても 1 日 2 回に分けて投与する。1 日量は 1.8mg/kg(0.45mL/kg)又は 120mg(30mL)のいずれか少ない量を超えないこと。○18 歳以上の患者：1 日 40mg(10mL)より開始し、その後

1 日 80mg(20mL)まで増量した後、1 日 80～120mg(20～30mL)で維持する。1 日 80mg(20mL)までの増量は 1 週間以上、その後の増量は 2 週間以上の間隔をあけて行うこととし、いずれの投与量においても 1 日 1 回又は 1 日 2 回に分けて投与する。1 日量は 120mg(30mL)を超えないこと。

(デキサメタゾン)

▶デカドロン錠 4mg

Decadron 4mg/錠 [日医工]

〔薬価〕37.8 円/錠

【効】①慢性副腎皮質機能不全(原発性、続発性、下垂体性、医原性)、急性副腎皮質機能不全(副腎クリーゼ)、副腎性器症候群、亜急性甲状腺炎、甲状腺中毒症(甲状腺(中毒性)クリーゼ)、甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症、ACTH 単独欠損症、特発性低血糖症、下垂体抑制試験、関節リウマチ、若年性関節リウマチ(スチル病を含む)、リウマチ熱(リウマチ性心炎を含む)、リウマチ性多発筋痛、強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)、エリテマトーデス(全身性及び慢性円板状)、全身性血管炎(大動脈炎症候群、結節性動脈周囲炎、多発性動脈炎、ヴェゲナ肉芽腫症を含む)、多発性筋炎(皮膚筋炎)、強皮症、ネフローゼ及びネフローゼ症候群、うっ血性心不全、気管支喘息、喘息性気管支炎(小児喘息性気管支炎を含む)、薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒(薬疹、中毒疹を含む)、血清病、紫斑病(血小板減少性及び血小板非減少性)、再生不良性貧血、白血病(急性白血病、慢性骨髄性白血病の急性転化、慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病を含む)、溶血性貧血(免疫性又は免疫性機序の疑われるもの)、顆粒球減少症(本

態性、続発性)、潰瘍性大腸炎、限局性腸炎、重症消耗性疾患の全身状態の改善(癌末期、スプルーを含む)、劇症肝炎(臨床的に重症とみなされるものを含む)、胆汁うっ滞型急性肝炎、慢性肝炎(活動型、急性再燃型、胆汁うっ滞型)(一般的治療に反応せず肝機能の著しい異常が持続する難治性のものに限る)、肝硬変(活動型、難治性腹水を伴うもの、胆汁うっ滞を伴うもの)、サルコイドーシス(両側肺門リンパ節腫脹のみの場合を除く)、びまん性間質性肺炎(肺線維症)(放射線肺臓炎を含む)、重症感染症(化学療法と併用する)、肺結核(粟粒結核、重症結核に限る)(抗結核剤と併用する)、結核性髄膜炎(抗結核剤と併用する)、結核性胸膜炎(抗結核剤と併用する)、結核性腹膜炎(抗結核剤と併用する)、結核性心嚢炎(抗結核剤と併用する)、脳脊髄炎(脳炎、脊髄炎を含む)(一次性脳炎の場合は頭蓋内圧亢進症状がみられ、かつ他剤で効果が不十分なときに短期間用いること)、末梢神経炎(ギランバレー症候群を含む)、筋強直症、重症筋無力症、多発性硬化症(視束脊髄炎を含む)、小舞蹈病、顔面神経麻痺、脊髄蜘蛛膜炎、悪性リンパ腫(リンパ肉腫症、細網肉腫症、ホジキン病、皮膚細網症、菌状息肉症)及び類似疾患(近縁疾患)、好酸性肉芽腫、乳癌の再発転移、副腎摘除、副腎皮質機能不全患者に対する外科的侵襲、侵襲後肺水腫、臓器・組織移植、蛇毒・昆虫毒(重症の虫さされを含む)、原因不明の発熱、卵管整形術後の癒着防止、前立腺癌(他の療法が無効な場合)、陰茎硬結、湿疹・皮膚炎群(急性湿疹、亜急性湿疹、慢性湿疹、接触皮膚炎、貨幣状湿疹、自家感作性皮膚炎、アトピー皮膚炎、乳・幼・小児湿疹、ビダール苔癬、その他の神経皮膚炎、脂漏性皮膚炎、進行性指掌角皮症、その他の手指の皮膚炎、陰部あるいは肛門湿疹、耳介及び外耳道の湿疹・皮膚炎、鼻前庭及び鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等)(重症例以外は極力投与しないこと)、痒疹群(小児ストロフルス、蕁麻疹様苔癬、固定蕁麻疹を含む)(重症例に限る。固定蕁麻疹は局注が望ましい)、蕁麻疹(慢性例を除く)(重症例に限る)、乾癬及び類症(尋常性乾癬(重症例)、関節症性乾癬、乾癬性紅皮症、膿疱性乾癬、稽留性肢端皮膚炎、疱疹状膿痂疹、ライター症候群)、掌蹠膿疱症(重症例に限る)、扁平苔癬(重症例に限る)、成年性浮腫性硬化症、紅斑症(多形滲出性紅斑、結節性紅斑)(多形滲出性紅斑の場合

は重症例に限る)、アナフィラクトイド紫斑(単純型、シェーンライン型、ヘノーホ型)(重症例に限る)、ウェーバークリスチャン病、粘膜炎皮膚症候群(開口部びらん性外皮症、スチブンス・ジョンソン病、皮膚口内炎、フックス症候群、ベーチェット病(眼症状のない場合)、リップシュッツ急性陰門潰瘍)、レイノー病、円形脱毛症(悪性型に限る)、天疱瘡群(尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡、Senear-Usher 症候群、増殖性天疱瘡)、デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡、妊娠性疱疹を含む)、先天性表皮水疱症、帯状疱疹(重症例に限る)、紅皮症(ヘブラ紅色粧糠疹を含む)、顔面播種状粟粒性狼瘡(重症例に限る)、アレルギー性血管炎及びその類症(急性痘瘡様苔癬状粧糠疹を含む)、潰瘍性慢性膿皮症、新生児スクレレーマ、内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎、網脈絡膜炎、網膜血管炎、視神経炎、眼窩炎性偽腫瘍、眼窩漏斗尖端部症候群、眼筋麻痺)、外眼部及び前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適當又は不十分な場合(眼瞼炎、結膜炎、角膜炎、強膜炎、虹彩毛様体炎)、眼科領域の術後炎症、急性・慢性中耳炎、滲出性中耳炎・耳管狭窄症、メニエル病及びメニエル症候群、急性感音性難聴、血管運動(神経)性鼻炎、アレルギー性鼻炎、花粉症(枯草熱)、進行性壊疽性鼻炎、喉頭炎・喉頭浮腫、耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法、嗅覚障害、急性・慢性(反復性)唾液腺炎、難治性口内炎及び舌炎(局所療法で治癒しないもの) ②抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)

【用】(内) ①1日 0.5～8mg を1～4回に分割投与する。②1日 4～20mg を1～2回に分割投与する。1日最大 20mg までとする。

(シナカルセト塩酸塩)

▶レグパラ錠 25mg

Regpara 25mg/錠 [協和発酵キリン]

【薬価】549.8 円/錠

【効】①維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症 ②下記疾患における高カルシウム血症：副甲状腺癌、副甲状腺摘出術不能又は術後再発の原発性副甲状腺機能亢進症

【用】(内) ①開始用量としては、1日1回 25mg を投与する。以後は、患者の副甲状腺ホルモン(PTH)及び血清カルシウム濃度の十分な観察のもの

と、1 日 1 回 25～75mg の間で適宜用量を調整し、投与する。PTH の改善が認められない場合には、1 回 100mg を上限として投与する。増量を行う場合は増量幅を 25mg とし、3 週間以上の間隔をあけて行うこと。②開始用量としては、1 回 25mg を 1 日 2 回投与する。以後は、患者の血清カルシウム濃度の十分な観察のもと、1 回 25～75mg の間で適宜用量を調整し、1 日 2 回投与する。増量を行う場合は 1 回の増量幅を 25mg とし、2 週間以上の間隔をあけて行うこと。血清カルシウム濃度の改善が認められない場合は、1 回 75mg を 1 日 3 回又は 4 回まで投与できる。